



平成 21 年 2 月 13 日

各 位

会社名 楽 天 株 式 会 社
代表者名 代表取締役会長兼社長
三 木 谷 浩 史
(JASDAQ コード 4755)
問合せ先 取締役 常務執行役員
高 山 健
電話 03-6387-0555

平成20年12月期 当社業績の前期との差異に関するお知らせ

本日、当社グループは平成 20 年 12 月期業績について「平成 20 年 12 月期 決算短信」を
発表しましたが、前期業績との差異が大きいため、その概要について下記のとおりお知ら
せいたします。なお、当社グループは業績予想を開示しておりませんので、ジャスダック
証券取引所の規則に従い前期との比較を行っております。

記

1. 平成 20 年 12 月期の業績 (平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)

(1) 連結業績

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成 19 年 12 月期実績 (A)	213,938	118	2,376	36,898
平成 20 年 12 月期実績 (B)	249,883	47,151	44,531	△54,977
対前期増減額 (B-A)	35,944	47,032	42,155	△91,876
対前期増減率	16.8%	—	—	—

(2) 個別業績

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成 19 年 12 月期実績 (A)	61,630	18,471	19,731	17,243
平成 20 年 12 月期実績 (B)	89,663	27,743	26,767	△38,243
対前期増減額 (B-A)	28,033	9,272	7,036	△55,487
対前期増減率	45.5%	50.2%	35.7%	—

2. 業績の概要

(連結) 当連結会計年度(平成20年12月期)については、平成19年12月期第3四半期連結会計期間末から連結を開始したフュージョン・コミュニケーションズ(株)が当連結会計年度においては期首からの連結となった影響とともに、EC事業及びトラベル事業の好調が大きく寄与し、売上高は249,883百万円(前連結会計年度比16.8%増)となりました。営業利益については、EC事業及びトラベル事業の増収効果、クレジット・ペイメント事業における利息返還損失繰入額及び貸倒関連費用の減少による大幅な損益改善、及び経営管理体制の強化施策「Project V」を通じた費用構造見直しの効果等により、営業利益は47,151百万円(前連結会計年度は118百万円)と顕著に改善し、経常利益も44,531百万円(前連結会計年度は2,376百万円)と大きく伸びました。しかしながら、株式市場の低迷を受け保有する投資有価証券につき評価損67,176百万円を計上するなど、特別損失80,911百万円を計上し、当期純損失54,977百万円を計上いたしました。(前連結会計年度の当期純利益は持分法適用関連会社の株式売却益を特別利益に計上したこと等に伴い36,898百万円でした。)

(個別) 売上高は、『楽天市場』などEC事業が引き続き堅調に推移したことに加え、平成19年12月に連結子会社を吸収合併したことに伴う売上増などを要因に、89,663百万円(前会計期間比45.5%増)と大きく伸びました。営業利益については、経営管理体制の強化施策「Project V」を通じた費用構造見直しの効果等が奏功し、27,743百万円(前会計期間比50.2%増)と大幅な増益となりました。経常利益も営業利益の増加を受け大きく伸びましたが、支払利息の増加等により26,767百万円(前会計期間比35.7%)と営業利益対比では伸び率は小幅となりました。最終損益については、投資有価証券の評価損や関係会社整理引当金繰入額など特別損失54,924百万円を計上したことから、当期純損失38,243百万円となりました。(前会計年度の当期純利益は関連会社株式売却益を特別利益に計上したこと等に伴い17,243百万円でした。)

以 上